

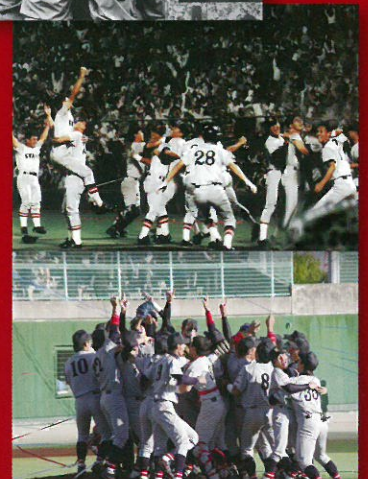
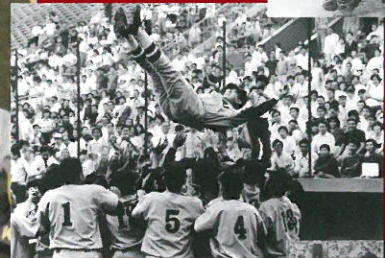
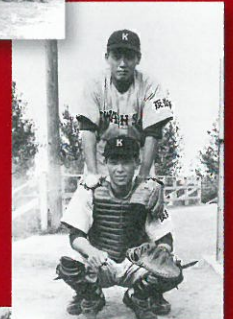
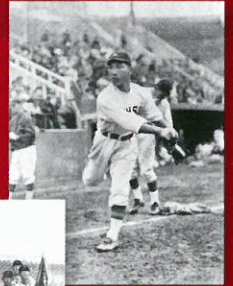
平成27年度 関西大学 年史資料展示室 企画展

この伝統を、超える未来を。



100年の軌跡 新時代の幕開け

関西大学野球部100年



関西大学年史編纂室

関大野球部100年の「軌跡」と79年目の「奇跡」

関大野球部100年の栄冠と苦闘、それを物語るメモリアルが並ぶ100周年記念展の中で異色は1936(昭和11)年、ハワイに遠征した関大野球部18人のサインだ。その裏に関大野球部とハワイをつなぐロマン…。

18人のサインは「関西大学野球部100年誌」の作成に当たり資料を整理しているときに見つかった。表紙に「関西大学野球部渡布記念サイン 昭和拾壹年八月」。

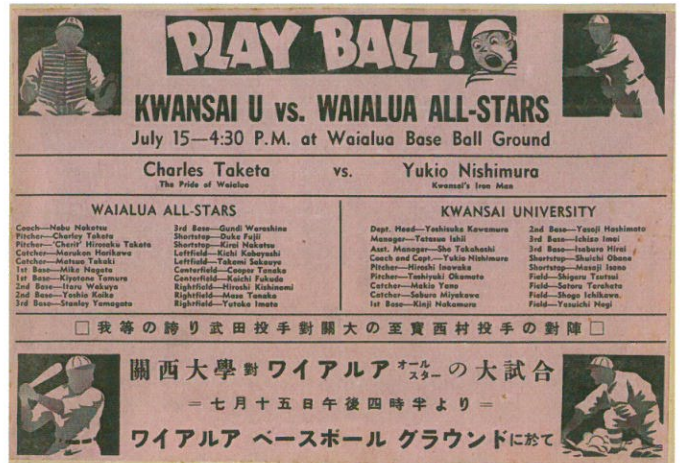
関大野球部は1915(大正4)年に創部。戦前は朝鮮、満州、米本土、ハワイなど海外にたびたび遠征した。1936(昭和11)年は2度目のハワイ遠征で卒業後、プロ野球の大阪(現阪神)タイガースに入り活躍、のちに野球殿堂入りを果たす西村幸生が主将でエース。ホノルルをスタートにオアフ、マウイ、ハワイの各島で22試合を戦い20勝2敗の好成績を残した。

団長は野球部長の河村宣介教授。選手は主将の西村以下、岡本利之、宮川三郎ら18人。そのメンバー全員が帰国の前、滞在中世話になったKoide Saburoさん、本人いわく「関西大学野球部のTeam Bat Boy」に感謝をこめてサインを贈った。資料整理中に見つかったのはそのコピーで、OB会事務局はハワイ大学コミュニティ・カレッジ名誉総長のジョイス津野田幸子さんにサインを見せて、Koideさん探しをお願いした。

幸子さんは西村幸生夫妻の長女。幸子さんの母、当時、東末子



遠征メンバーの主将を務めた西村幸生投手(左)



対ワイアルア戦のポスター、6-0で関大の勝利

さんは1933(昭和8)年、熊本の親戚訪問を終え、秩父丸でハワイへ帰国。その船にハワイ遠征に向かう関大チームも乗り合わせていて、末子さんはその時もエースとして活躍、遠征チームの一員だった西村と知り合い、のちに結婚、西村の郷里三重県宇治山田で挙式、二人の間に生まれたのが幸子さんだった。

混同を避けるため詳述すると西村と東末子さんが出会ったのは1回目のハワイ遠征で、遠征した選手が帰国前にサイン帳をKoideさんに贈ったのは2回目の遠征。Koideさんが知人を介して、そのサイン帳のコピーを関西大学本部に送ってきたのは2002(平成14)年8月。長い間、眠っていた。それはともかく手がかりをつかむのに幸子さんには苦勞をかけた。幸子さんはハワイの日本語新聞やラジオで「尋ね人」を広報。

尋ね人

こいでさぶろう様

2002年当時、ニューヨークにあるPopulation Councilに於いて黄熱病研究で有名な日本の野口英世博士の研究をなさっていたハワイ出身日系二世のこいでさぶろう(小出三郎?)様の消息を御存知の方を探しております。

こいで様はPopulation Councilの仕事を通じて日本の関西大学とも交流があり、それ以前の幼少期の1936年には関西大学野球部がハワイで親善試合を行った際にバットボーイを務められ、関西大学野球部員18名が署名したサインブックを受け取っております。

こいで様との連絡が取れれば、当時のハワイに於ける野球事情を御伺いすると共に、是非とも関西大学野球部員が署名したサインブックも拝見させて頂きたいと存じます。と申しますのは、私の実父西村幸生は当時関西大学野球部の投手兼主将を務めており、ハワイ遠征チームの一員としてサインブックに署名している事を関西大学事務局より知らされました。

父は関西大学から戦前の阪神タイガースのエースピッチャーに転じ、1944年応召、1945年4月、36歳の若さで戦場の露と消えました。役所からの死亡通知以外の遺品や遺骨もなく、出来ればこいで様にお会いして学生野球のエースとしてハワイでも活躍した父の往年の姿や、サインブックに署名された父の肉筆を是非拝見させて頂きたいと存じます。

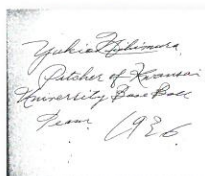
お手数をかけますが下記(幸子さんのハワイのアドレス)までご連絡頂ければ誠に幸甚に存じます。視聴者の皆様方のご理解とご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

Joyce Tsunoda

第2回ハワイ遠征メンバー

- 部長 河村 宣介
- マネージャー 石井 達雄
- 副マネージャー 高橋 昌
- 投手・主将 西村 幸生(宇治山田中)
- 投手 稲若 博(八尾中)
- 投手 岡本 利之(米子中)
- 捕手 矢野 慎雄(高松商)
- 捕手 宮川 三郎(八尾中)
- 一塁手 中村 金次(浪華商)
- 二塁手 橋本 彌三治(八尾中)
- 二塁手 岡野 八郎(膳所中)
- 三塁手 今井 市蔵(甲陽中)
- 三塁手 平井 猪三郎(浪華商)
- 遊撃手 尾鼻 周一(田辺中)
- 遊撃手 磯野 政次(海南中)
- 外野手 筒井 滋(高松商)
- 外野手 寺島 悟(興国商)
- 外野手 市川 正吾(城東商)
- 外野手 禰宜 保市(耐久中)

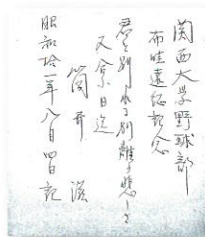
渡布記念サイン



西村 幸生



稲若 博



筒井 滋

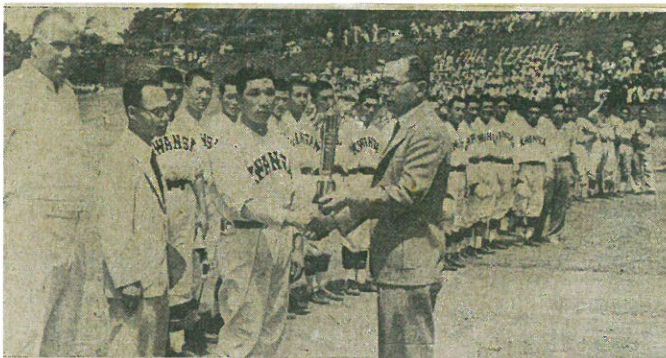
この呼びかけから手掛かりができ1か月後の2月25日、KoideさんはSamuel Koide氏と判明。Samuel Koide氏は内分泌腺専門医としてスローン・ケッテリング・キャンサー記念センター及びニューヨーク市のロックフェラー大学内Population Councilの生物医学研究センター上席研究員として業績を残した。

幸子さんの話では91歳になられていたが記憶もはっきりしていて79年前の関大野球部の思い出を感慨込めて語られたという。幸子さんが「遠征チームのエースだった西村幸生は私の父です」と明かすと「Oh! He was a great Pitcher!」

名前が同じ「さぶろう」ということで大変可愛がられたという宮川三郎さん(八尾中)や世話になった岡本利之さん(米子中)のことも懐かしそうに話され、卒業後、どんな仕事をしたか、今はどうされているか尋ねられた。

1年生ながら捕手として海外遠征に参加した宮川は卒業後、長崎西高の監督を務め、1951(昭和26)年の選抜高校野球大会ではベスト4に入り、その後、社会人野球神戸銀行の監督として都市対抗にも出場した。1998(平成10)年、関大野球部史発刊の際、担当が高槻市の自宅を訪ねたときは元気で貴重な証言を得たがその後2003(平成15)年死去された。

岡本は1年では内野、外野。その後投手に捕手も兼ね、1938(昭和13)年春には首位打者を獲得。卒業後、米子東高の監督に就任。1960(昭和35)年の選抜高校野球大会に出場、準優勝に輝く。1968(昭和43)年に没。Koideさんには後日このことは伝えた。



ハワイオアフ島ワイパフの試合で記念トロフィーを受け取る西村投手



ハワイへ向かう秩父丸船上での記念写真

3個のサインボール



西村幸生投手の長女ジョイス津野田幸子さんは今、千葉県の聖徳大学教授で英語を教える一方、日本とハワイを行き来しているが、このほどさいたま市の自宅に父西村幸生が昭和11年、ハワイへ遠征した時、現地でサインしたボールが3個届いた。

ハワイ特有の赤茶けた土で汚れたボールに「西村ゆきお」の文字。サインした日、「July 18, 1936」も記されていた。Koideさん探しのため幸子さんが広く情報を求めたのは別項で書いたが、このサインボールはkoideさんの弟さんが自宅に保管していたらしい。

野球部は7月18日、真珠湾近くのワイパフで現地の砂糖会社チームと試合し、6-0で勝っている。西村はその試合の前後にサインしたのだろう。記念のボールは記念展で展示される。

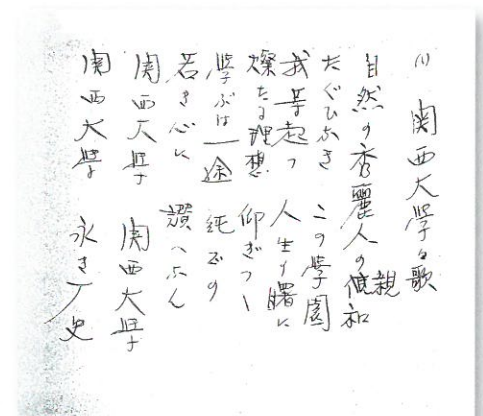


ワイパフの球場を訪れるジョイス津野田幸子夫婦と妹のクリム洋子さん(左端)

ハワイをつなぐロマンには続きがあって、現関大の早瀬万豊監督が社会人時代に高校野球の解説者を務めたことで親交のあった米子東高元監督の杉本さんを通じて岡本の子と連絡が取れ幸子さんとの交流がスタートした。その日が西村幸生の命日、4月3日。二人は今年6月、幸子さんが米子に出向き対面した。

関大野球部とハワイの懸け橋になった18選手のサイン、英語に自信があった西村は英語で書いている。稲若博も英語で「Forget me name」と書いて別れを惜しみ、筒井滋は「君と別れ別離の悲しさ又会う日まで」きっとKoideさんに人一倍お世話になったのだろう。

サイン帳の最後に学歌1番(下写真)が書かれている。「どんな歌ですか」とKoideさんに所望され全員が歌ったであろう姿が目につく。



関西大学野球部100年 栄光の歴史

関西大学70年史によると野球部の誕生には「母校の改革運動」といわれた学園紛争が関わっていた。紛争は大正3年10月30日有志学生主催の学生会が4か条を決議したことから始まる。

4か条は社団法人から財団法人への組織変更。大学総務幹事に対し不信任と不適宜という理由で辞職を強要。本学の威厳を保持するため専門部入学試験制度を厳しくし、また本学学友会委員の選挙権を在生にも与える一からなり、その前日、約50人の有志学生が開いた会合で作られた。

学生側が一番強硬だったのは大学総務幹事の辞任。総務幹事は母校の出身で入学した時から学生兼書記。卒業後は学校経営に携わった。母校に対する思い入れは強く、それが時に行き過ぎたことが学生に受け入れられなかったとみられる。

騒動は講師でもあった法学博士岡村司の調停により解決。総務幹事は退陣。以後学友会の自治が確立。それまで角力、庭球の2部だったクラブに野球部、弁論、雑誌、武術部が加わり6部になった。こうしたいきさつを経て関大野球部は産声を上げ、翌4年1月15日に結成準備会を開催。他の部と違い運営費のねん出が頭の痛い問題だったが、同月末の予算会議で雑誌部2、弁論部1、角力、庭球、武術部が0.5に対し野球部は4という配分が決まった。後は優秀な選手を集めるだけ。関係者が全国に飛ぶ。

各地中学の優秀な選手が集まると資料には書かれているが、当初の部員は11人。3月下旬に用具を買い入れ、4月1日に豊中に合宿所が出来、同日から練習を始めた。5月15日、奈良に遠征、春日倶楽部と創部第1戦、12対1で大勝。

関西六大学リーグが誕生、開幕するのはそれから16年後の昭和6年秋。関大は緒戦の神商大(現神戸大)戦に3-8で大敗。秋は立命に次いで2位。無敵の強さを発揮するのは翌7年から加盟問題で紛糾、連盟を脱退した9年を除き11年まで8連覇を達成、その時チームを支えたのが、本田竹蔵と西村幸生だった。

本田は8年に卒業。そのあとエースとなったのが西村。3連覇を

達成した8年春のリーグ戦の後、ハワイに1回目の遠征を行う。3連覇のご褒美で、ハワイに向かう船上で西村はハワイ在住の日系米国人女性東末子さんを見初めそれを契機に二人は12年に結婚。二人の間の長女が先のKoideさん探しに奮闘した幸子さん。

その頃から20年後、31年、関大野球部は大学日本一に輝く。その時のエース村山実(西村幸生を尊敬していた。関大野球部の出身で野球殿堂入りしているのは上記の西村、村山に村山と同級の上田利治の三人。同級生の殿堂入りは立教大の長嶋茂雄、杉浦忠の例があるだけだ。

二人はバッテリーを組み初出場の大会で、準決勝で早大、決勝で日大を破り日本一を達成した。大会前、野球部は長野県飯田市で合宿を張り、上京した。メンバーに入れなかった選手は東京に行く仲間と別れ大阪に戻った。その中にいた達摩省一が16年後の47年、監督として野球部を率いて2度目の大学日本一を達成する。

この時は山口高志という剛球投手がいた。それから33年後の昨年、関大野球部は創部100年を飾り19年ぶりのリーグ優勝を飾った。今年から新しい世紀、目指すは3度目の日本一だ。



創部当時の関大野球部員

- 大正 4年(1915)・野球部創部
 - ・奈良・春日倶楽部と対抗試合を行い初勝利
- 12年(1923)・関大、同志社、関西学院(高等部)の「3校リーグ戦」を開始
- 15年(1926)・朝鮮遠征を行う(9勝3敗1分)
- 昭和 4年(1929)・関大、同志社、京大で「関西3大学野球連盟」を組織し3大学リーグ戦を開始
 - ・満州(中国東北地区)に遠征
- 5年(1930)・アメリカ遠征を行う(6勝4敗)
- 6年(1931)・関西六大学野球連盟を結成しリーグ戦を開始
 - ・千里山野球部(学部・予科で編成)と天六野球部(専門部)が大同団結
- 7年(1932)・関西六大学リーグで初優勝
 - ・朝鮮に2回目の遠征(6勝1敗)
- 8年(1933)・ハワイ遠征を行う(9勝4敗)
- 9年(1934)・満州(中国東北地区)に2回目の遠征(4勝3敗)
- 10年(1935)・朝鮮に3回目の遠征(4勝1敗)
- 11年(1936)・ハワイに2回目の遠征(20勝2敗)
- 21年(1946)・関西六大学リーグが復活
- 24年(1949)・関西六大学リーグで戦後初優勝

- 31年(1956)・第5回全日本大学野球選手権大会で初優勝
- 36年(1961)・第10回全日本大学野球選手権大会準優勝
- 37年(1962)・関西六大学野球連盟が近畿、阪神、京滋各野球連盟と合体。関西大学野球連合が発足する
- 45年(1970)・第19回全日本大学野球選手権大会準優勝
- 47年(1972)・第21回全日本大学野球選手権大会で優勝(2回目の全国制覇)
 - ・第3回明治神宮野球大会で初優勝
 - ・関西六大学リーグでの春・秋優勝を含めて、大学球界初のグランドスラムを達成
- 56年(1981)・関西六大学リーグで優勝決定戦に臨むも、延長17回で惜敗
- 57年(1982)・関大、関学、近大、京大、同志社、立命の6大学で関西学生野球連盟を発足
- 平成 3年(1991)・関西学生リーグで19年ぶりの優勝
 - ・第40回全日本大学野球選手権大会準優勝
- 7年(1995)・関西学生リーグで優勝
- 26年(2014)・関西学生リーグで19年ぶりの優勝(34回目)
 - ・42年ぶりに第45回記念明治神宮野球大会に出場
- 27年(2015)・野球部創部100周年記念式典を開催

関西大学年史編纂室

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
 TEL 06-6368-1062 FAX 06-6368-1426
 E-mail nenshi@ml.kandai.jp
 URL <http://www.kansai-u.ac.jp/nenshi/>

本企画展の開催ならびパンフレット編集にあたり、
 関西大学野球部OB西田二郎様と関西大学野球
 倶楽部のご協力をいただきました。記して感謝
 の意を表します。